様式３－１

令和 6年　10月18日

令和6年度　結果の分析及び今後の改善策（案）

（ 中間 最終 ）

蒲刈中学校区　校番31　学校名　呉市立蒲刈小学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（1年間）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★	学んだことを実際の社会や生活で生きて働かせ，未知の状況にも対応できる児童生徒の育成	知識・技能の確実な定着	□期末テスト 教科別では，国語科〔89%〕・算数科〔86%〕 ◎デジタルドリルを活用して隙間の時間を復習にあてさせた。 ▲家庭学習の習慣がついていない。	○家庭と連携し、家庭学習の大切さを啓発していく。 ○引き続き火曜・木曜に放課後学習を位置付ける。
			□読書の取組 ▲図書委員会による表彰の取組や担任からの声掛けを続けた結果、読書に親しむ児童は増えたが、読んだ記録を残し忘れた児童もおり、数値が上がらなかった。	○読書委員会の取組に児童の参加を促す。 ○担任からの声掛けを強化し、読書に対する意識を高めていく。
			□50m走の記録 ◎児童会を中心とした全校での取組を行った。 ▲積極的に外遊びをしているが、走につながる遊びにはなっていない。	○休憩時間は外遊びを奨励していく（夏を除く） ○授業の最初におにごっこなど、走る活動を取り入れ継続していく。
		貫 自己表現できる力の育成	□発表の場の設定・授業での説明する場の設定 ◎言いたいことをはっきりさせて言おうとしたり、説明や発表をしたりすることが習慣づいてきた。 ▲声の大きさが小さかったり、要点をまとめた内容になっていなかったりなどの課題が残っている。	○「相手意識」を念頭に置きながら表現・発表をさせていく。 ○話合いの時のポイントを学校としてまとめる。
		思考力・判断力・表現力の育成	□思考力・判断力・表現力テスト：国語科（90%）・算数科（96%） ◎低学年ではなぜその回答をしたのか、その都度理由を説明させた。中・高学年では、学習ガイドと学習リーダーを中心に学習計画および学習展開を予想して、授業を進めた。	○各学年の課題に応じて指導を改善していく。低学年　文章を読んで答える問題に取り組む。中・高学年　友達の意見との共通点や相違点などについて質問しあえるようにしたり、個別指導を強化したりしていく。
★★	地域を愛し協働して貢献し、学んだことを自分の人生や社会に生かそうとする児童生徒の育成	貫 自己肯定感の育成	□児童アンケートで「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合（86%） ◎合同遠足や合同運動会などの行事やキャリアファイル記入を通して自身のよいところに目を向けさせた。 ▲行事に合わせた単発の取組にとどまり、より日常的な場面での推進が不十分だった。	○自分や他者の頑張りに目を向けて評価しあう取組を推進する。そうすることで、他者から認められたり感謝されたりする経験につなげ、自分自身のよいところに目を向けさせる。
		自己の生き方を考える力の育成	□児童アンケートで「災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している」と答えた児童の割合（97%） ◎呉市学校防災週間の取組として，災害時の避難場所と避難方法に関する授業を中学校と連携しながら全学級で実施した。	○土砂災害以外の想定される各種災害への対応や避難についても、訓練等を通して引き続き指導していく。
			□児童アンケートで「将来に向けての夢や目標がある」と答えた児童の割合（94%） ◎将来に向けての夢や目標を持つことができるように，生活科や総合的な学習の時間の学習などを通して，学校外の様々な人との協働学習を行うことができた。	○今後もこの取組を継続するとともに，キャリアノート等を活用して適切に振り返らせる。
		協働的に関わる力の育成	□児童アンケートで「地域や社会をよくするために何をするべきかを考えることがある」と答えた児童の割合（91%） ◎「地域や社会をよくするためにできること」にはどのようなことがあるのか，児童に分かりやすく例示をして振り返らせることができた。	○今後も児童の言動を教師が価値づけ、自分の行動と地域への貢献がどう結びついているかを意識づけていく。
★	貫 教職員の意欲と能力を発揮できる教育環境づくり	児童と向き合う時間の確保	□アンケートで「日々の業務の中で充実感を得られていると感じる」と答えた教職員の肯定的評価の割合（100%） ◎日々の業務の中で「充実感を得られている」と感じる教職員の肯定的な割合は，全体の100%であった。この結果は，「業務に優先順位をつける」「個々のスケジュール管理の意識の徹底を図る」ことが定着してきたことに起因していると考えている。	○引き続き，「業務に優先順位及び軽重をつける」「個々のスケジュール管理の意識を高めていく」ことに，全教職員で集中して取組を進めていく。
		長時間勤務の軽減	□また，時間外勤務が月45時間を超えない教職員の割合は，4月～8月は，管理職を除いて100%であった。 ◎昨年度と比較すると，肯定的評価が高くなっている。これは，「管理職がリーダーシップをとり，何でも言える環境を整えてきたこと」「熟議を通して，教職員のアイデアを積極的に取り入れてきたこと」が影響しているものと分析している。	○しかしながら，ただ，「時間外が減った。良かった。」という安易な評価は避けたい。「自分の時間を大切にする」を管理職として，意識していきたい。